

令和5年度 浜松市立豊岡小学校 学校評価報告書

1 自己評価（自己評価結果及び考察）

本校は、知「楽しい学びと確かな学力」、徳「豊かな心としなやかさ」、体「たくましい心と健やかな体」を総合的に身に付けることで、学校教育目標「やさしい子 チャレンジする子」の育成を目指すことができるのではないかと考え、取り組んできた。

令和5年11月に、児童、保護者や地域の方々、教職員にアンケートを実施し、今年度の教育活動の振り返りを行った。項目は、知徳体にかかわる12項目、「学校が好きかどうか」の1項目、計13項目についてである。自己評価は4段階（4：そう思う 3：だいたいそう思う 2：あまりそう思わない 1：そう思わない）で判断してもらい、その結果を三者（児童、保護者・地域、教職員）の立場から比較をした。以下はその考察である。なお、比較のグラフも添付する。



- 「豊岡小が好きだ（豊岡小に通う児童は幸せだ）⑬」の数値が非常によい。
 - ・子どもに寄り添う時間や姿勢を大切に、「明日、また来なくなる学校」の具現化を引き続き目指す。
 - ・地域素材や人材を活用し、地域の魅力を発見できる取り組みを継続する。
- 「ICTの項目②」は、児童や保護者に肯定的な考えが多いが、三者のずれは大きい
 - ・授業で「個に応じた多様な学び方」にさらに対応できるように、職員研修で取り組んでいく。
 - ・朝の時間や道徳の授業などを使い、情報モラルやマナーについての指導を進めていく。
- 「基本的生活習慣の項目⑨」については、児童・保護者の数値がよい。
 - ・学校でできることとして、学校生活の中で健康的な生活の大切さを引き続き指導していく。
 - ・懇談会やCS活動を通じ、保護者同士で相談できる場を確保していく。
- 「自分のよさを生かす項目⑪」については、三者とも低い数値になっている。
 - ・命について考える週間を設定し、生命の尊さを考えたり自己肯定感を高めたりする機会をつくる。
 - ・学級での係活動や委員会活動、行事、縦割り活動、挨拶運動など多岐にわたる活躍の場を確保する。
 - ・懇談会やCS活動を通じ、保護者同士で相談できる場を確保していく。

- 「意見の発信①」については、児童や職員が低い数値になっている。
 - ・年5回の朝会や学年集会、運動会や音楽発表会の児童発表など、人前で話す機会を年間計画に位置付ける。
 - ・普段の授業から「聴く力」「伝える力」等の育成を目指し、伝え合うことの楽しさを味わわせる。
- 「言葉の使い方⑤」と「ルールを守る項目⑫」は、児童・保護者と教職員との間の意識のずれが大きい。
 - ・教職員は、学校は社会規範を学ぶ場でもあることを意識し学校生活全体で指導をしていくとともに、個別面談等で様々な表れについて保護者に伝えていく。
 - ・みんなが気持ちよく過ごすためにはどうすればいいか時と場に応じて考えさせる。

2 学校関係者評価

2月9日（金）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果及び考察について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・ICTについて高学年の子たちは、どの程度理解しているのか。教える側の教員にレベルの差はあるのではないかと。ICTを使わなくて良い場面があると思う。
- ・ICTは歴史が浅いのでこれから課題がある。ICTの授業では意見を言える場面を作ってほしい。
- ・ICTは生徒へのメリットもあるが教員にもメリットがあると思う。働き方について期待している。アンケート項目の「進んであいさつを行っている」が昨年より数値が低くなっている要因は何か。
- ・子供たちがおとなしい気がする。もっと前に出てきてほしい。
- ・活躍する子はいつも同じ。おとなしい子にも出番があると良い。
- ・アンケートの結果を踏まえてグランドデザインを作ってほしい。アンケート項目の「相手に分かるように自分の考えを伝えている」という意味が子供たちに伝わっていないのではないかと。
- ・ルールを守る項目においては長く続けると良いと思う。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ICTについては、授業で「個に応じた多様な学び方」にさらに対応できるように、夏の職員研修などで時間をかけて取り組んでいく。また、学年で時間を合わせ、朝の時間や道徳の授業などを使い、情報モラルやマナーについての指導を進めていく。